

審査員賞

高校生部門

東京都豊島区

私立城西大学附属城西高等学校2年

泉 杏梨

「おばあちゃん、ありがとう」

高校生になった私は、どんどん大人へと近付いていく自分に不安を感じていました。将来の夢は決まっていたけれど、なかなか学力も伸び悩んでいたし、まずその夢さえも本当に自分に合っているのかも分からなくなっていたからです。

そんな高一の夏休みに、長野に住む祖母の所に遊びに行った時のことです。人生経験も豊富で何でも知っている祖母に悩みを相談してみました。すると祖母は私にこんな質問をしました。

「自分の未来を想像することができるかい」

私は、想像できないと祖母に答えると、

「想像できないってことは、まだ沢山の可能性があるからなんだよ。これから先、杏梨には広い世界が待っている。けど、それがどんな世界なのかは誰にも分からない。でもね、どんな世界にするかは、自分で決められるんだよ。自分の努力のしかたによってね。沢山学びなさい。英語や数学みたいな勉強はもちろんだけど社会についてね。様々な社会を知れば、考えも広がる。未来はゆっくり決めればいい。分岐点なんて沢山あるんだから」

と祖母は言いました。この言葉は私の胸に大きく響きました。

その後私は、様々な大学について調べたり、職場体験に参加をしたりするようになりました。また勉強でも、特に苦手な英語を学ぶために予備校にも通い始めました。家の中でも定期的に勉強するように、一日の計画も立てるようになりました。

まだ私は高二なので、これから先も悩み、失敗し、立ち止まってしまうことがあるかもしれない。けれどそのたびに祖母の言葉を思い出し、立ち向かっていこうと思います。祖母には、大きな勇気をもらいました。もう直接「ありがとう」は伝えることはできなくなってしまうけれど、きつとどこかで見守ってくれていると思います。そんな祖母に、胸はって感謝できる大人に私はなります。